

熊本 S. J. C. D. 例会抄録

演 題 「成長発育期において 可撤式装置を用い咬合誘導している症例」

演者名 鮫田誠也

日 付 2012年5月22日(火)

KeyWord

1. 成長発育期
2. MFT
3. 食事指導

抄録

上顎前歯突出を主訴として、他の歯科医院を受診したが納得出来ず、セカンドオピニオンで当院を受診した9歳・女兒の矯正治療症例を発表します。

患者様は、セファロ分析、模型診査により上顎歯列の拡大不要、下顎歯列は経過観察と診断しました。治療方針として、上顎に唇側孤線装置付き床矯正装置を装着し、口輪筋・舌のMFT及び食事指導を中心に行いました。その結果、上顎前突は改善し 左右6の咬合関係もⅡ級からⅠ級へと改善しました。また、上気道の狭窄も改善され口呼吸主体から鼻呼吸へと改善することが出来ました。この様に口腔周囲軟組織（筋・舌）の生理的に正しい機能を与えることは、ワイヤーを利用した矯正に比べ、患者の負担も少なく成長発育期の子供たちに最も適した治療法であると私は考えています。まだ、2年3か月と治療途中であり、今後も成長発育が終了するまで経過を追っていくつもりであります。

諸先生方のご意見ご指導の程、宜しくお願い致します。